

獄中の賛美

シリーズ～福音となったイエス～

2026・6・14

マケドニア

フィリピ

イエスの霊
がそれを許
さなかった

マケドニア人
の幻を見る

御言葉を語る
ことを聖霊か
ら禁じられる

バルナバと
マルコのこ
とでけんか

マルコの
宣教旅行
パウロの旅の経路
道路



テサロニケ
ベレア
アンクイポリス

トロアス

ミシア

ツム

エフェソス

フリギア
ガラテア

リストラ

イコニオン

デルベ

キリキア

アンティオキア

シリア

ト

クレタ

地

中

海

カエサレア

エルサレム

フィリピでの宣教

- 神の導きに従ってマケドニアにやって来た
 - 二度も聖霊によって道をふさがれトロアスに
 - マケドニア人の幻を見てすぐに海を渡る
- フィリピにやってきたパウロー行
 - 「マケドニア州第一区の都市でローマの植民都市」
- 最初の宣教
 - 「安息日に町の門を出て、祈りの場所があると思
われる川岸に行った。そして、わたしたちもそこに
座って、集まっていた婦人たちに話をした。」16:13
 - 会堂の代わりにユダヤ人が集まる場所

宣教の実と妨害

• 最初の宣教の実

- リディアと言う改宗者の女性が信じ、パウロ一行は彼女の家に逗留することになった

• 宣教妨害を始めた女奴隷

- 「占いの霊に取りつかれている女奴隷」が「この人たちは、いと高き神の僕で、皆さんに救いの道を宣べ伝えているのです。」としつこく叫んだ

• パウロが占いの霊を追い出す

- 「パウロはたまりかねて振り向き、その霊に言った。『イエス・キリストの名によって命じる。この女から出て行け。』すると即座に、霊が彼女から出て行った。」16:18

不当な投獄

- 女奴隷の主人がパウロらを訴える
 - 「金もうけの望みがなくなってしまった」
 - 「この者たちは…ローマ帝国の市民であるわたしたちが受け入れることも、実行することも許されない風習を宣伝しております。」16:20-21
 - 「群衆も一緒になって二人を責め立てた」22
- 鞭打たれ投獄される
 - 「高官たちは二人の衣服をはぎ取り、『鞭で打て』と命じた。そして、**何度も鞭で打って**から二人を牢に投げ込み、看守に厳重に見張るように命じた。この命令を受けた看守は、**二人をいちばん奥の牢に入れて、足には木の足枷をはめておいた。**」23-24

獄中の賛美

- パウロたちは牢獄で賛美しながら祈っていた
 - 「真夜中ごろ、パウロとシラスが**賛美の歌をうたって神に祈っている**と、ほかの囚人たちはこれに聞き入っていた。」16:25
 - 鞭打たれた痛みで眠ることもできなかったのでは
- 突然地震が起こり、牢の扉が全部開き、すべての囚人の鎖も外れた！
 - 「突然、**大地震**が起こり、牢の土台が揺れ動いた。たちまち**牢の戸がみな開き、すべての囚人の鎖も外れてしまった。**」26

自殺しようとした看守

•自殺しようとした看守

- 「目を覚ました看守は、牢の戸が開いているのを見て、囚人たちが逃げてしまったと思い込み、**剣を抜いて自殺しようとした。**」27

•思いとどまらせたパウロの叫び

- 「パウロは大声で叫んだ。『**自害してはいけない。わたしたちは皆ここにいる。**』」28
- パウロたちだけではなく**他の囚人たちも逃げなかった！**
- 神の奇跡を体験して恐れおののいたのだろうか？

救われた看守とその家族

•パウロの前にひれ伏した看守

- 「看守は、明かりを持って来させて牢の中に飛び込み、パウロとシラスの前に震えながらひれ伏し、二人を外へ連れ出して言った。『先生方、救われるためにはどうすべきでしょうか。』」29-30

•看守とその家族の洗礼

- 「二人は言った。『主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます。』そして、看守とその家の人たち全部に主の言葉を語った。まだ真夜中であったが、看守は二人を連れて行って打ち傷を洗ってやり、自分も家族の者も皆すぐに洗礼を受けた。」31-33

後日談

- 高官から釈放指令が出たがパウロは
 - 「高官たちは、**ローマ帝国の市民権**を持つわたしたちを、裁判にもかけずに公衆の面前で鞭打ってから投獄したのに、今ひそかに釈放しようとするのか。いや、それはいけない。高官たちが自分でここへ来て、わたしたちを連れ出すべきだ。」37
- 高官が謝罪に来て町を離れるよう頼む
 - 「高官たちは、二人がローマ帝国の市民権を持つ者であると聞いて恐れ、出向いて来てわびを言い、**二人を牢から連れ出し**、町から出て行くように頼んだ。」38-39

後日談

パウロは鞭打たれる前にいう事ができたはずだが...

- 高官から釈放指令が出たか？
 - 「高官たちは、**ローマ帝国の市民権**を持つわたしたちを、裁判にもかけずに公衆の面前で鞭打ってから投獄したのに、今ひそかに釈放しようとするのか。いや、それはいけない。高官たちが自分でここへ来て、わたしたちを連れ出すべきだ。」37
- 高官が謝罪した。看守のために頼む
 - 「高官たち、**看守のために牢に留まった！**市民権を持つ者であると聞いて、山向いて来てわびを言い、**二人を牢から連れ出し**、町から出て行くように頼んだ。」38-39

獄中の賛美

- 導かれたからと言って**上手くいくとは限らない**
 - 2度も行く手を阻まれ幻を見せられてやってきた町で、不当に捕らえられ鞭打たれ牢に入れられる
- **試練を受け入れる**
 - 「わたしの兄弟たち、いろいろな試練に出会うときは、この上ない喜びと思いなさい。」ヤコブ1:2
- 困難な状況の時こそ**賛美する**
 - 何もできない時でも賛美と祈りはできる！
- 主を賛美するときに**御業**が起こる
 - 神の御業は「**予想外**」である